

# Gold OAに対応するのは誰か

国立情報学研究所

学術コンテンツ課

相原 雪乃

# 背景

---

**NEXT JUSTICE**

本日午前の部

尾城 孝一 (NII学術基盤推進部 次長)

- OAジャーナルの進展
- 大学図書館の役割の見直しが求められる
- 研究者のOAに対する意識、OAジャーナルへの投稿、APC支払いの実態が不明

# Gold OA

---

- 査読付きオープンアクセス誌への投稿
- Article Processing Chargeが必要とされる

# Article Processing Charge (APC)

---

- 「論文出版加工料」「論文加工料」「論文投稿料」などと訳される
- ここでは、OAジャーナルに掲載するために投稿者に請求される費用とする

# APCについて、日本ではどうか

---

- どうやって払っている？
- いくらくらい払っている？
- そのことを誰が知っている？

# SPARC Japanによる調査

---

- 「オープンアクセスジャーナルによる論文公表に関する調査」

SPARC Japan OA (オープンアクセス) ジャーナルへの投稿に関する調査ワーキンググループ (平成26年5月)

→ 以下「APC調査」

<http://www.nii.ac.jp/sparc/2014/05/apcwgreporth26.html>

- 研究者対象: ウェブによるアンケート調査 (完全回答2,475人)
- 学術研究機関対象: インタビュー調査 (8機関)
- 文献調査 (5論文)

# 主な質問項目（研究者）

---

- 投稿する学術雑誌を決める際に考慮する要素
- OAジャーナルの投稿数
- 投稿するOAジャーナルを決定する要素
- 支払ったAPCの金額
- 費用の出所

# 主な質問項目（機関）

---

- APC等の支払い状況
- 費用の出所
- APCの認知度
- 機関の研究成果発表の方針とOAの位置づけ

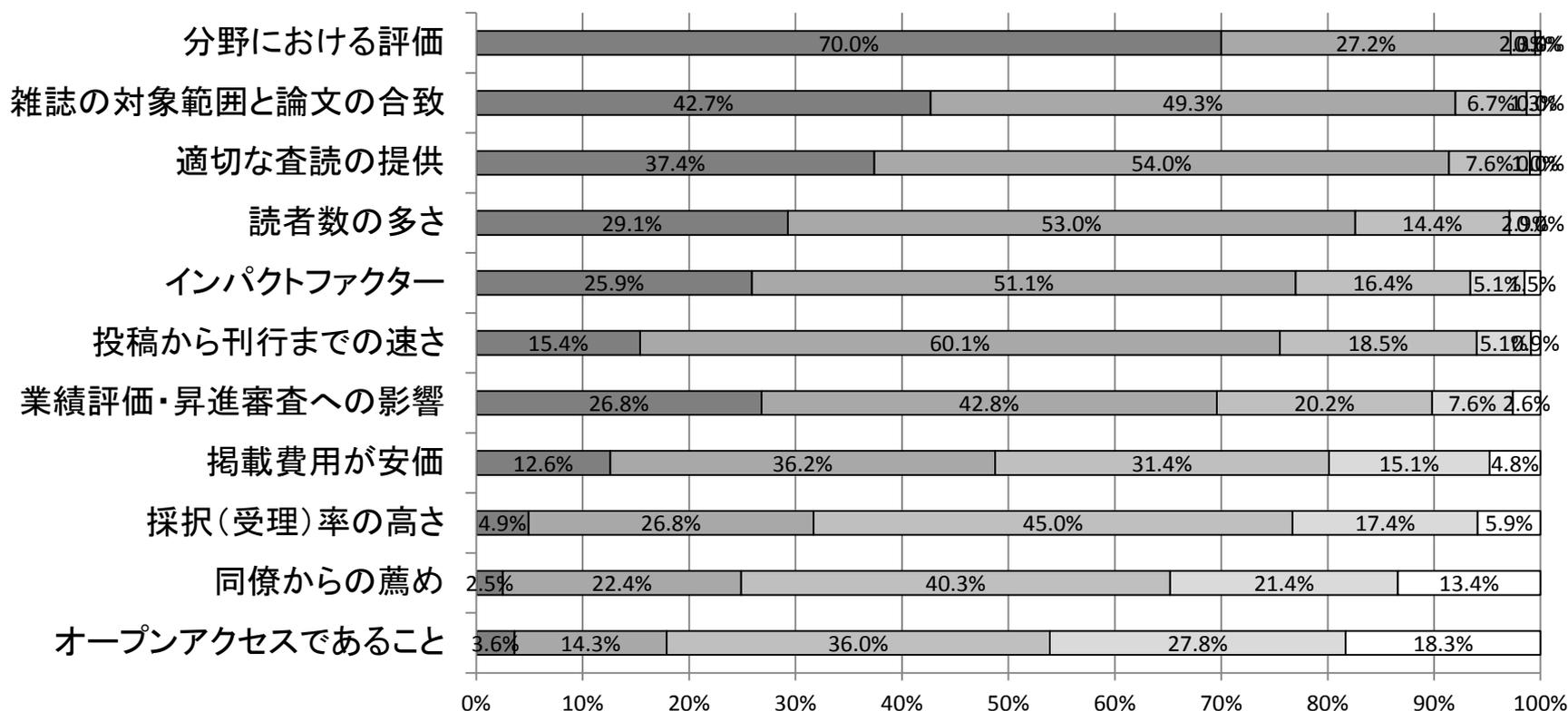
# わかったこと(研究者)

---

- 論文の投稿先を選ぶ際に「オープンアクセスであること」はあまり重視されておらず、「分野における評価」、「雑誌の対象範囲と論文の合致」、「適切な査読の提供」等の従来からの決定要因に合致するOAジャーナルの出現が掲載論文数の増加を推進している。

# APC調査から

## ● 投稿の際に考慮する要素



とても重要である
  重要である
  どちらとも言えない
  あまり重要でない
  まったく重要でない

# APC調査から

- 過去1年間のOA発表論文数

度数	2,475	
最頻値	0	
標準偏差	2.576	
パーセン タイ ル	25	0
	50	0
	75	1

	度数	パーセント	累積パーセント
0	1,602	64.7	64.7
1	461	18.6	83.4
2	186	7.5	90.9
3	116	4.7	95.6
4	34	1.4	96.9
5	34	1.4	98.3
6	7	0.3	98.6
7	5	0.2	98.8
8	9	0.4	99.2
10	14	0.6	99.7
13	2	0.1	99.8
15	1	0.0	99.8
17	1	0.0	99.9
20	1	0.0	99.9
25	1	0.0	100.0
100	1	0.0	100.0

# APC調査から

- ・過去1年間にOAジャーナルに掲載された論文に対し、支払った論文処理費用の合計額（1ドル=100円換算）

度数	有効	522
平均値		166,433
中央値		135,000
最頻値		100,000
標準偏差		141,227.46
パーセンタイル	25	80,000
	50	135,000
	75	200,000

※3,000円以下の回答は、APC(論文処理費用)とその他の費用(抜き刷り代等)を混同している可能性が高いため、集計から除外

# わかったこと(機関)

---

- 従来からのジャーナル購読契約だけでなく、APCの支払い額を含めた全体としての支出額を把握する必要性は高いという認識はあるが、機関内のAPC実態を把握している機関はごくわずかである。

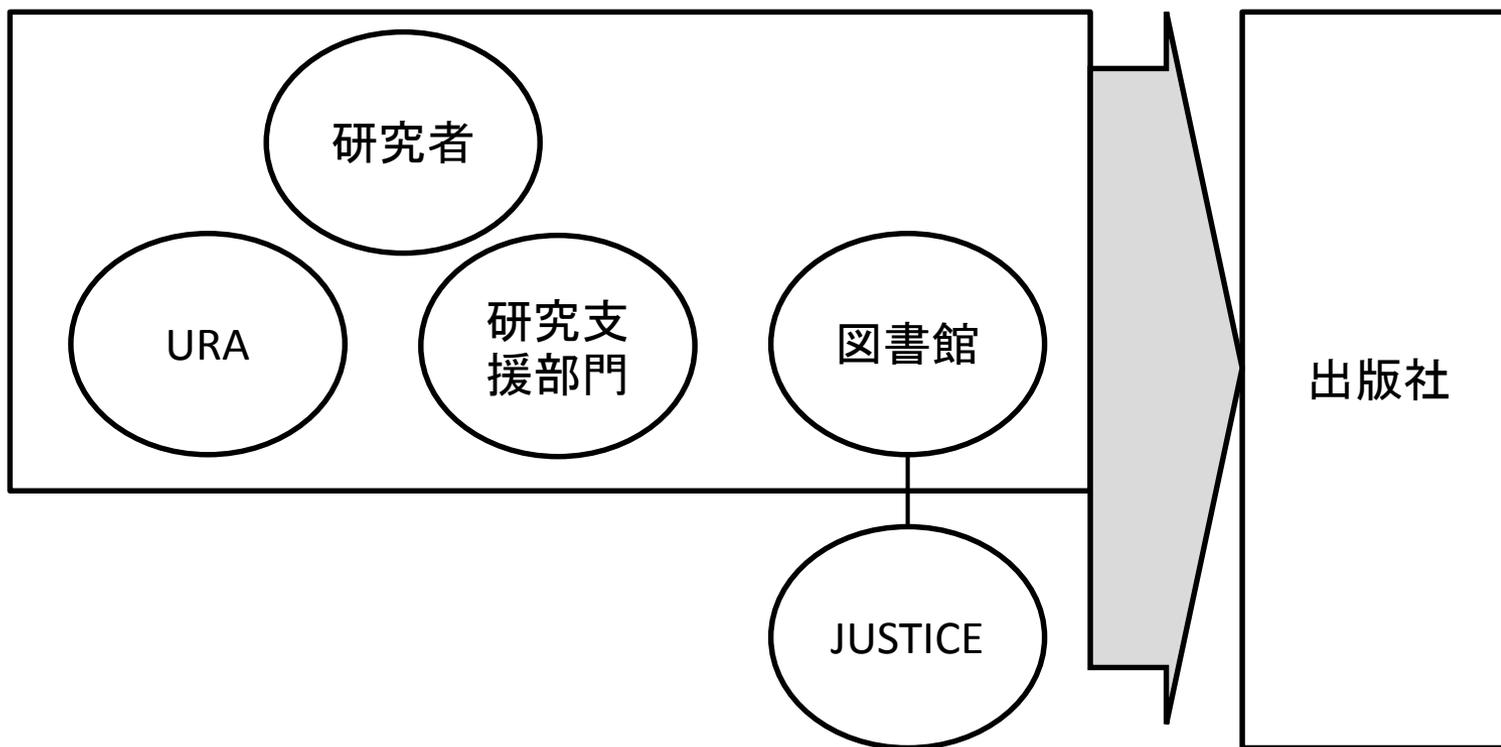
# APC調査で指摘された課題

---

- 機関負担モデルや適切な価格設定等について検討を開始する必要がある
- 組織としてOAジャーナルを含む学術リソースの確保と研究発信力強化をどのように位置づけるか、が大きな課題である

詳細は、平成26年第1回 SPARC JAPANセミナーで報告します。  
日程は後日ご案内いたします(7月を予定)。

# (機関の中で) Gold OAに対応するのは誰か



SPARC Japanでそれぞれのステークホルダーの連携を強化し、支援していくような活動をしたい

# 参考

---

- 「オープンアクセス出版の動向」 杉田 茂樹  
平成24年度国立大学図書館協会「学術情報流通セミナー」講演資料  
<http://www.janul.jp/j/projects/si/seminar2012/seminar20130124k02s.pdf>
- 「オープンアクセスの広がりと現在の争点」  
佐藤 翔 情報管理 Vol. 56 (2013) No. 7 P 414-424  
<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.56.414>